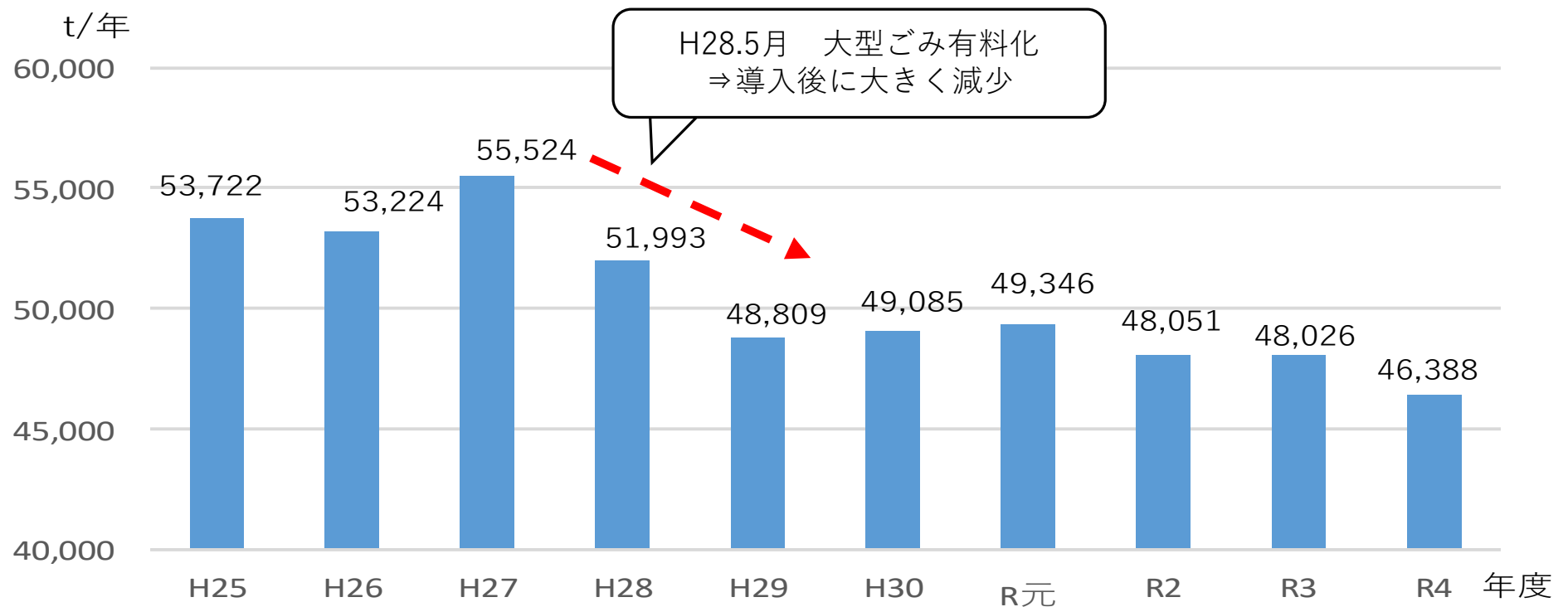


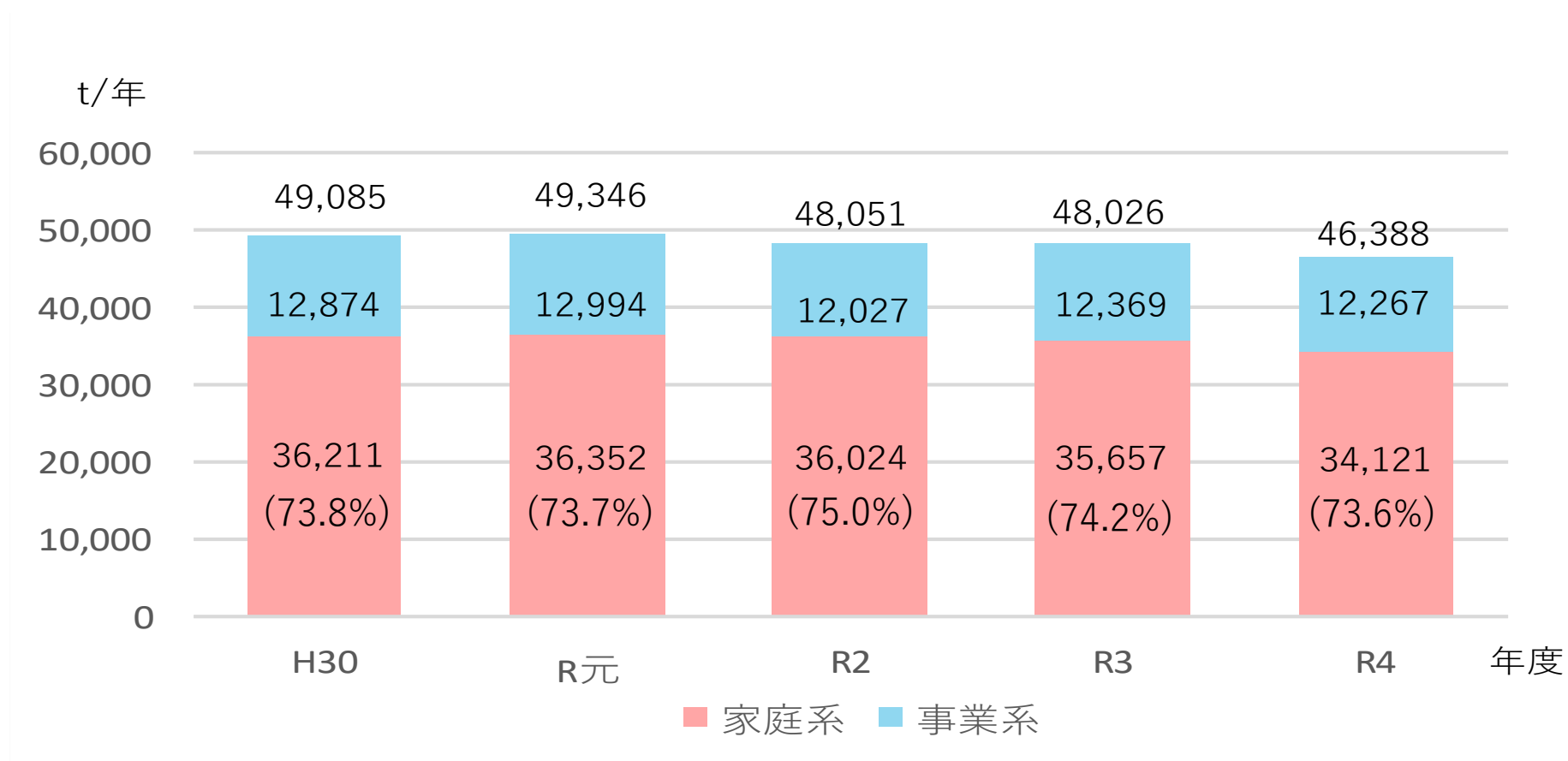
ごみの減量を考える市民ミーティング 参考資料

1 総ごみ排出量の推移



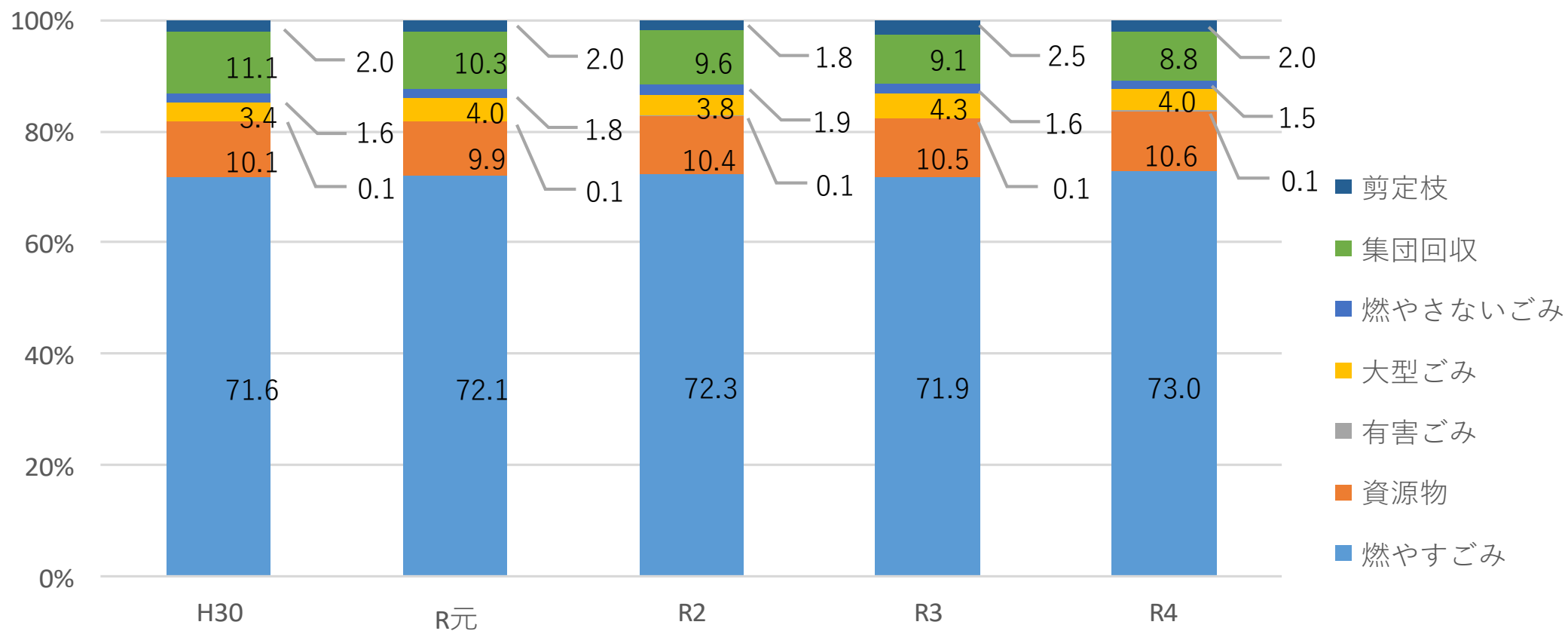
◎過去10年間の総ごみ排出量は減少傾向にあり、特に、平成28年度以降は、大型ごみの有料化の影響で大きく減少しました。

2 総ごみ排出量の内訳の推移（5年間）



◎総ごみ排出量に対する家庭系ごみの割合は、73～75%で大部分を占めており、住宅都市である川西市の特徴を表しています。

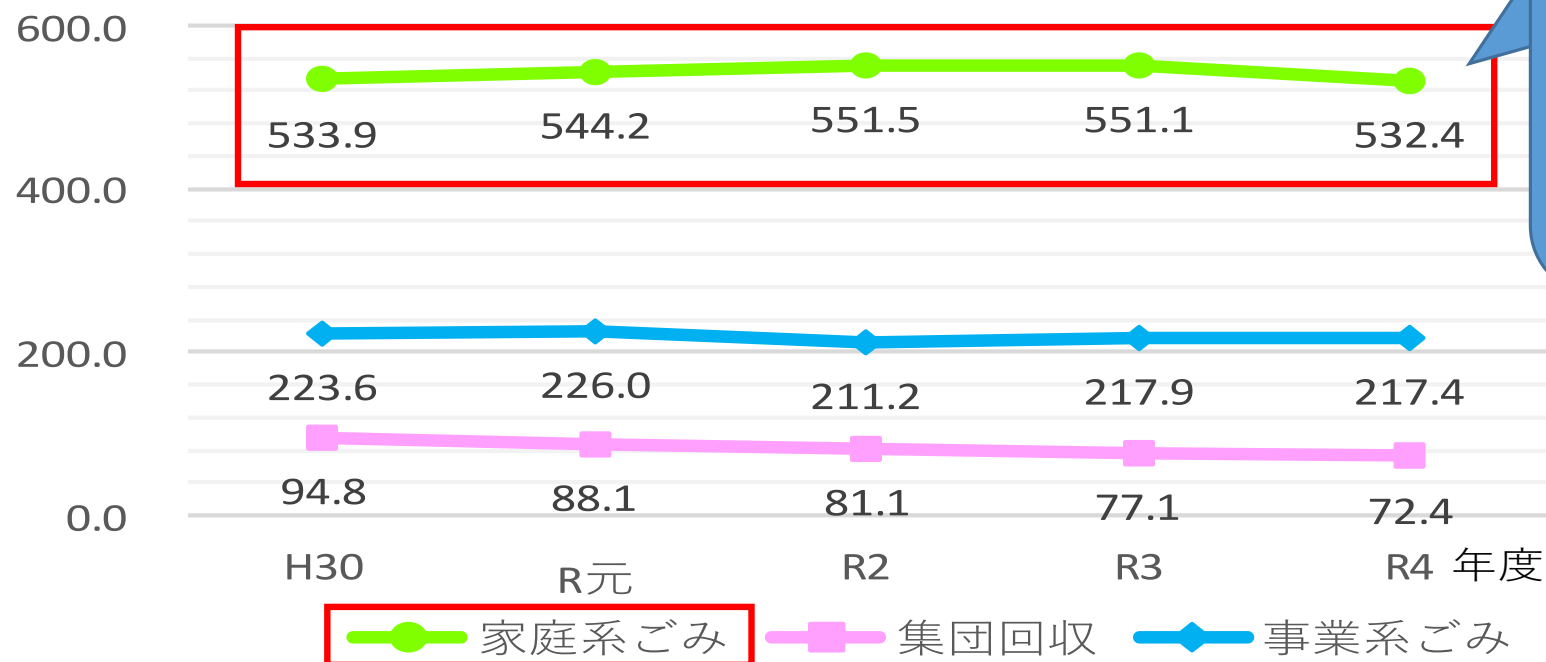
3 種類別排出量の割合の推移（5年間）



◎種類別排出量の推移では、燃やすごみの量が多く70%以上を占めています。

4 1人1日当たりの家庭系ごみの排出量の推移（5年間）

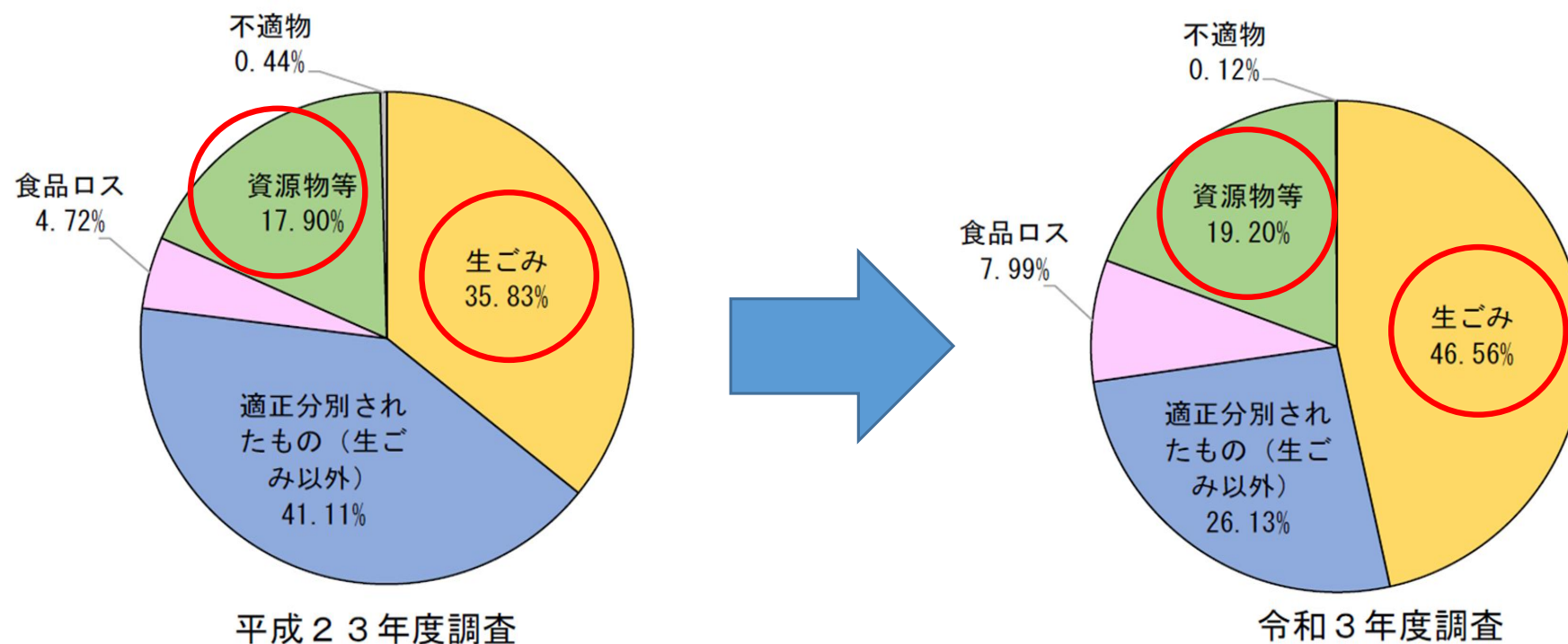
g/人・日



～R4年度の減少の要因～
 令和3年度の収集体制の見直し説明会、令和4年度からの体制見直しで、減少したと考えられます。

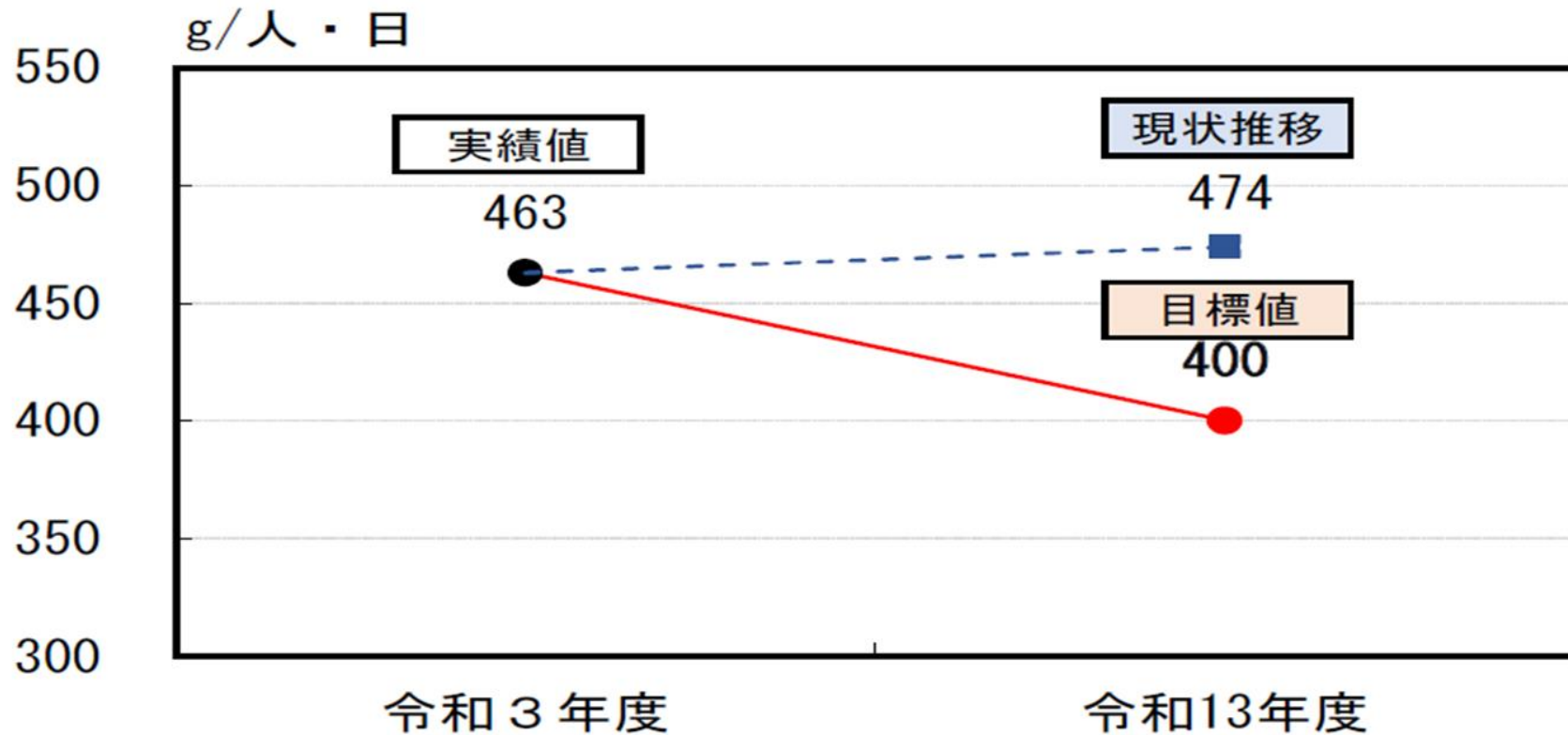
◎市民1人1日あたりの家庭系ごみ排出量は、令和3年度まではやや増加しており、令和4年度は平成30年度と同程度に戻り、減っていません。

5 燃やすごみの中身の割合（平成23年度と令和3年度）



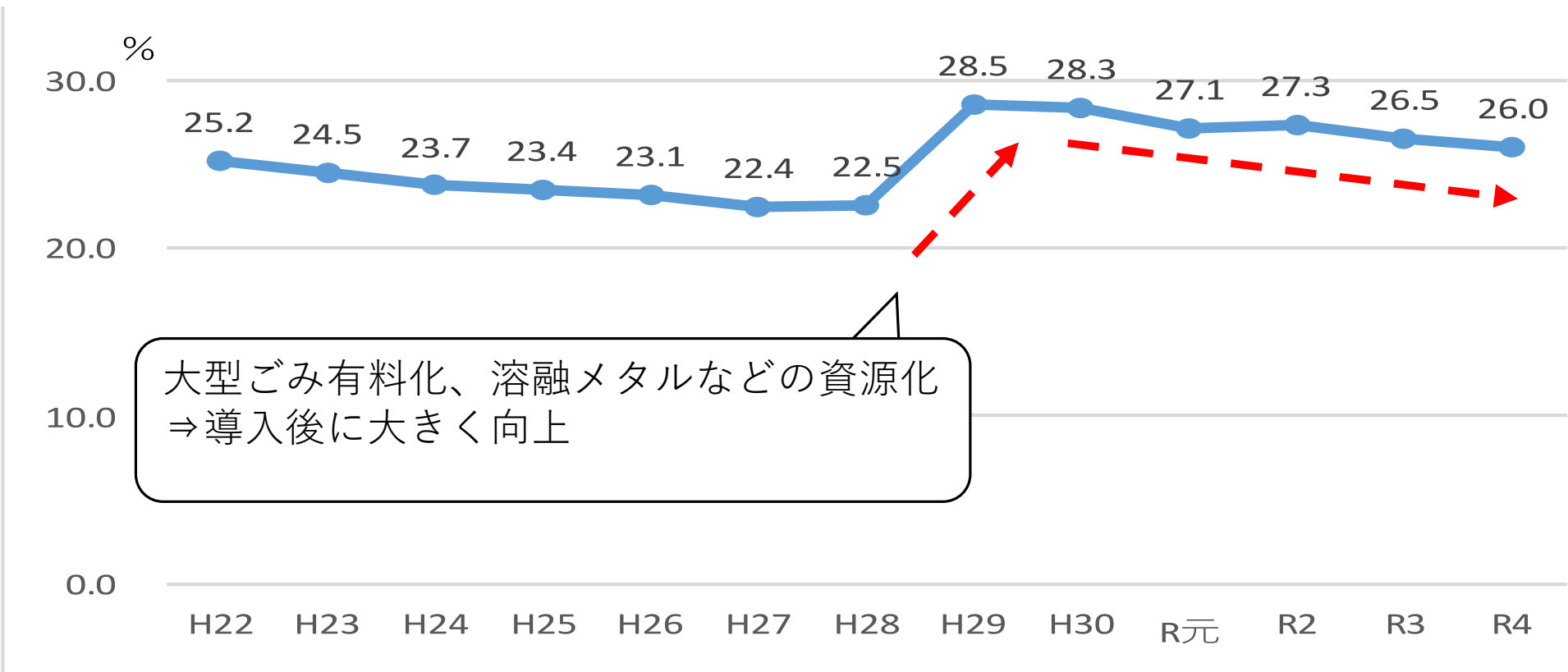
◎燃やすごみの中身を見ると、リサイクルできる「資源物」が混ざっている状況で、その割合もこの10年間で増加しています。

6 1人1日当たりの家庭系ごみ排出量の将来推計（資源物・集団回収除く）



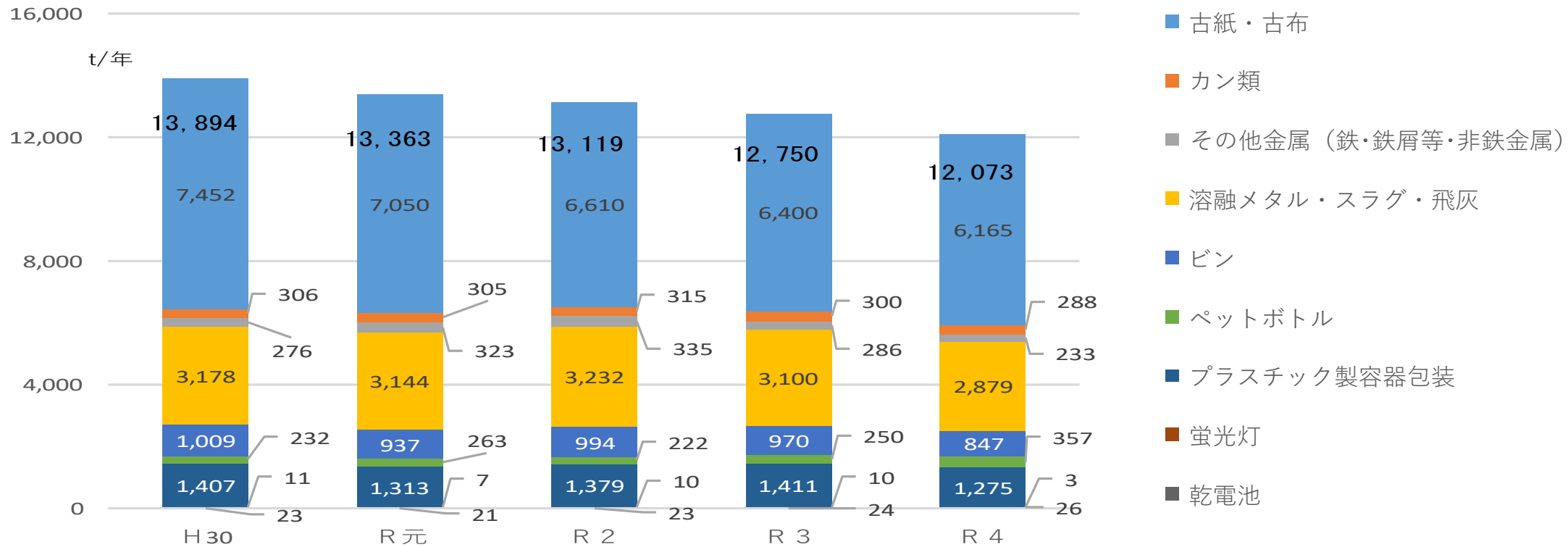
◎市民1人1日当たりの家庭系ごみの排出量の将来予測でも、令和13年度まで微増する予測になっています。

7 リサイクル率の推移（13年間）



◎大型ごみ有料化と溶融メタルなどの資源化によって、平成29（2017）年度にはリサイクル率が向上しましたが、その後は低下傾向にあります。

8 資源化量の推移（5年間）



- ◎ 集団回収を含む全体の資源化量は減少し、古紙・古布やビンも減少しています。
- ◎ ペットボトルはやや増加傾向にあります。
- ◎ プラスチック製容器包装は令和2年度までは減少傾向ですが、令和3年度は増加しています。